

こいいろ kokoiro

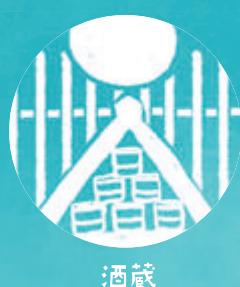
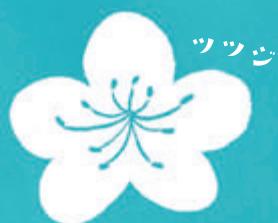
情報誌
2021.5

伊丹市立男女共同参画センター

“こいいろ”は「性別にかかわりなく、
誰もが自分らしく生きられる社会づくりの
拠点」として、2020年4月にオープンして一年が
経ちました。誰もが気軽に訪れ、学び、交流で
きる、地域に開かれた男女共同参画
センターを目指しています。



[https://
www.itami-
kokoiro.jp](https://www.itami-kokoiro.jp)



井 谷 恵 子 さ ん イ ン タ ビ ュ ー



2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す、国連開発目標「SDGs」の目標5に、「ジェンダー平等を実現しよう」が掲げられています。

各地で桜の便りが聞こえ、卒業の門出を祝う薈が開き始めた京都・伏見のキャンバスへ、体育・スポーツの分野のジェンダー課題について研究を続ける京都教育大学名誉教授の井谷恵子先生を訪ねました。

井谷先生は、「体育科教育学」を担当されてきました。体育カリキュラムの研究とは、どのようなものでしょうか。

体育=競技スポーツを学ぶことではないのですが、体育カリキュラムの大半が、高い運動能力や体力を目指す近代スポーツで占められ、カリキュラムの偏りも指摘されています。近代社会を牽引してきた男性優位の原理に沿ったものであり、厳しい指導が教育にも持ち込まれてきました。例えば、歴史的には顔を上げる泳法が一般的で、それは、海や川・池など身近な自然環境で安全に泳ぐための必要性から編み出されたものでした。今、水泳では、タイムやスピードばかりが求められていないでしょうか。泳ぎ方も時代によって変わっているのです。学齢期の体力向上には、身体と動きに関わる多様な価値を学び、生きるために多様な運動の方が必要です。これから学校体育やスポーツのあり方を考え続けています。

先生は、26年間勤めた京都教育大学を 2020年3月で定年退職されました。その前は、高校の教員でいらっしゃいましたが、研究者の道に進まれたきっかけは何だったのでしょうか。

大学卒業後、疑いもなく保健体育教員になり、尼崎や宝塚の兵庫県立高校で勤務しました。子どもが年子で生まれ、子育てをしながら教員を続けていたのですが、仕事が終わればすぐに保育所へ迎えに行き、食材を購入しご飯も作って、といふめまぐるしい忙しさでした。土日には部活動の指導もあります。両親と同居するなどの援助がないと難しく、同じように仕事と家事・育児の両立の壁にあたった保健体育教員の多くは、心身共に消耗し、部活動や生活指導の役割がない特別支援学校への異動か、または定年までに離職していました。そんな男性中心の職

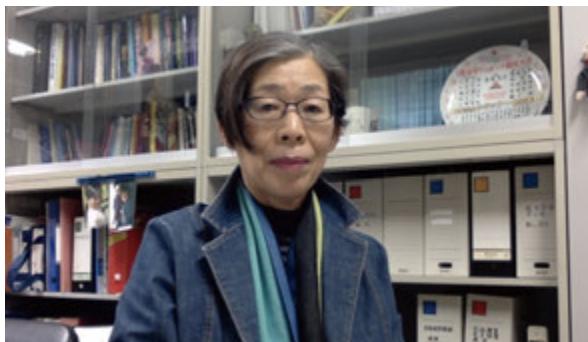
場で感じる違和感、教育的価値観の違いを抱える中、現職教員の研修を目的とする兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科が新設され、私は学び直しの機会を得て、その後、京都教育大学へ移りました。

体育・スポーツとSDGsの関係とは。

戦後から1964年の東京オリンピック、高度経済成長に伴い、国民の体力づくりは運動量を追い求め、競争原理が働き、画一的なものとなっていました。今の指導者はその教育を受けた人が多いです。しかし、コロナというパンデミックで、これまでの常識が変わり、あらゆるものを見直すきっかけになりました。持続可能な社会のために、教育も変わらないといけない。これからグローバル化していく社会では、知識を得ることよりも、社会の変化に対応する問題解決能力や探求力などが必要です。スポーツを幅広く見て、それぞれ自分にあった目標を持って、私たちが健康で幸せに生きていくための運動や健康づくり、人の交流など、多角的な視点でスポーツとのつき合い方など伝えていけたら、と思うのですが、スポーツ政策に係る予算配分は、多くを競技スポーツが占め、生涯スポーツへは少ないのが現状です。「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、成人の運動習慣は、「ウォーキング」がもっとも多いのですが、それにはトップアスリートのためだけの立派なスタジアム整備ではなく、誰もが安全に、安心して歩いたり自転車にのれる道路の整備やまちづくりも同様に優先されるべきでしょう。それによって、誰もがスポーツに親しみ、健康で活動的な生活を送ることを可能にしていきます。

体育は、今となれば必要な教科だったと分かるのですが、運動が苦手だった者にとって、学校の体育の授業は本当に苦痛なものでした。先生は、苦手な生徒の訴えにもスポットを当てられていました。

できることが当たり前のように求められ、できない人への配慮が希薄になっています。時には「やる気がない」と評価された経験も出てきています。技能の低い生徒にとって体育の授業がつらい場所となっていました。必修科目の一つである体育では、できないと人前で晒されるように感じ、消極的になり、いじめやいじりの対象になります。競争原理の働く球技や大縄跳びなどでは、集団に対して迷惑をかけてしまうプレッシャーがあり、失敗は自己評価を下げ、そ



の後の自己の内面に深く突き刺さる経験となっていることが、「体育離れ」の調査から見えました。学生に、学校時代の体育を思い出して、「良かった授業・嫌だった授業」について問いかけるとたくさん出でます。「仕方がない」と、あきらめて言えなかつたことを拾い上げ、エンパワメントしています。

学校の体育が苦手だった理由に、体操服もあるのではないかでしょうか。今ではほとんどなくなったと思うのですが、女子の体操服はブルマでした。ハーフパンツは性別で分けられることなく共通ですね。

今はハーフパンツが主流になりました。学校現場では、名簿が男女別から混合名簿になり、家庭科の男女共修化など、多くの方々の長年の努力から変わってきたところもあります。体操服は、暑さ寒さに対応した機能的なものでないし、成長に合わせてリサイクル・リユースが出来るようになるといいですよね。まだ、変えていかないといけないところがあります。水泳時の日焼け対策には、どの生徒の水着にもラッシュガードが必要ではないでしょうか。更衣室の問題もあります。性的マイノリティの生徒がいる中、体育カリキュラムには多くの課題が残っています。

この度、『オリンピックという名の虚構：政治・教育・ジェンダーの視点から』(井谷恵子・井谷聰子監訳)を出版されました。

1980年代からスポーツとジェンダー研究のパイオニアとして活躍し、トロントが候補都市となった1996年オリンピック大会の分析を通じて、スポーツ・メガイベントの社会への負の影響について研究を始めたヘレン・ジェファーソン・レンスキーによる「The Olympic Games: A Critical Approach」(2020)を翻訳したものです。一般の人々の目に映るオリンピックは感動的なスポーツの大会であるかもしれません、巨額の財源がどのように動いているのか注視すべき時で、オリンピックの唱える「レガシー」が、真に万人のためのものへと変革されるかどうか見極めたいところです。翻訳するのは自分で執筆するよりも何倍も難しいものでした。7人の研究者が関わったので、それぞれ訳語を統一しないといけない。より原書に近く、微妙なニュア

ンスなどを正確に訳するには、北米での生活経験がある娘(=井谷聰子さん、関西大学文学部准教授)が大変頼りになりました。

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の会長が、辞任に追い込まれました。これまでの女性活躍担当大臣(内閣府特命担当大臣・男女共同参画)が委員長になり、その後任も兼務で女性の五輪担当大臣となりました。それでも意思決定の場にいる女性の数が少ないままです。

日本は、「ジェンダー・ギャップ指数(2020)」が過去最低の121位です。「女性活躍社会」を掲げながら、女性活躍など出来ていない。スポーツ界では、パワーハラスメントや指導者による暴力などの不祥事が相次いだことから、スポーツ庁を中心に対策に乗り出しました。また、ジェンダー平等については、競技団体の運営指針『スポーツ団体ガバナンスコード』において、海外に比べて低い「女性理事の割合を40%以上」と目標を明記しています。しかし現状は15.6%で、罰則などがなく実効性が疑われます。

女性蔑視発言は、女性が意思決定の場に参画することが難しい日本社会の現状などもあぶり出しました。会長や大臣が代わってこれで終わり、としないために、私たちに出来ることがあるでしょうか。

私の所属する「日本スポーツとジェンダー学会(JSSGS)」は、創立からちょうど20年。スポーツ界における性差別的な認識と組織の在り方などについても研究対象としており、すぐに緊急声明を出しました。女性差別発言に対して、社会が黙っていないということがはっきり出ましたね。社会の意識が変化しているのに、政治もスポーツ界のリーダーたちも理解出来ておらず、スポーツのジェンダー問題への取り組みが遅い。国際的には、組織をジェンダーバランスで見ることは常識になっています。このまで終わらせないために、2021年度の学会大会でも取り上げていきます。日本でも、セクハラ被害を告発し、社会の変革を望む女性たちが勇気を持って声を上げた「#MeToo運動」のように、連帯し言い続けていくことが大事だと思います。

井谷恵子先生には、「ここいろジェンダー講座」の第3回目(5月27日)に登壇して頂きます。タイトルは、「誰ひとり取り残さないスポーツであるために～体育・スポーツに潜むジェンダー課題～」です。ぜひ、ご参加ください。

おすすめ 図書

オリエンピックという名の虚構
政治・教育・ジェンダーの視点から

ヘレン・ジェファーソン・レンスキーパ著/
井谷恵子・井谷聰子監訳

2021年・晃洋書房



オリエンピックの分析を通じて、水面下で起きている見過ごすことのできない人権侵害や若者の問題について、フェミニストが鋭く切り込んでいる。

「許せない」がやめられない
SNSで蔓延する「#怒りの快楽」依存症
坂爪真吾 著

2020年・徳間書店



ジェンダー問題にまつわるSNSの炎上を分析し、攻撃することをやめられない人々の言動を「依存症」という視点で捉えている。炎上に燃料を投下するような投稿を繰り返し、活動家どうし、似た者がお互いを叩き合う共依存のような関係は、ネットと現実が別世界ではなくなっていることの証にも思える。

生きづらいと思ったら
親子で発達障害でした

モンズースー 著

2016年・株式会社 KADOKAWA

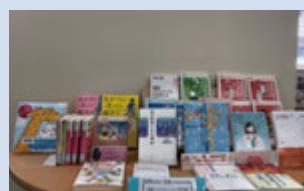


我が子の子育て、特に初めての子育てでは、作者と同じような不安や疲労をだれもが多少なりとも経験したのではないだろうか。思うようにならない子育ての中、手探りで作者が見いだしていく子どもとのコミュニケーションは、子どもの個性を尊重した子育ての参考になる。

図書・情報スペースより

国際ソロプチミスト伊丹様より、図書を寄贈いただきました

女性・児童センターから引き継いだ資料のうち、資格や職業関連の情報を最新にアップデートすることができました。その他にもトレンドのAI事情や、社会問題、ゼロ歳児さん向けの絵本まで、新刊が多数入ってきています。ここいろの図書・情報スペースをぜひご利用ください。



講座・ イベント レポート

2021年2月5日(金)13:30~15:30
「働きやすい職場をめざして」

女性と仕事研究家の金谷千慧子さんを講師に迎え、コロナ禍ですべての日常が一変した前例のない時代を切り開くべく、「女性を積極的に登用した企業は成果をあげ、誰にとっても働きやすい環境づくりになる」と、女性と仕事の歴史を交え、長年の研究・調査から企業は欠かせない女性の持つリーダーシップについて話して頂いた。「女性たちが力を發揮すれば、企業も地域も活性化する」との話に、



「女性の1人として活躍推進したい」、「仕事を通して従業員が活躍できる場を作っていくたい」、などの感想が寄せられました。

相談案内

2021年4月より、

(第2火曜日)

「女性のためのカウンセリング」に、16時～20時の相談時間が開設されました。



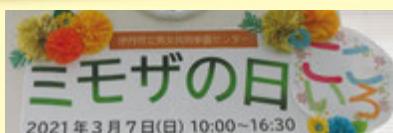
相談予約電話番号 **072-781-5516**

一時保育 1歳～就学前まで(無料)、予約時にお申し出ください。

さまざまな悩みを整理し、自分らしく次の一步を踏み出すため
専門のカウンセラーや弁護士が、あなたと一緒に考えます。
相談方法は、面接と電話相談があります。相談は無料、秘密は厳守いたします。

相談事業名	曜日	時間	備考
女性のための悩み電話相談	月曜日 第1日曜日	10時～14時	直通電話 072-781-5531
女性のためのカウンセリング	火曜日 (1回50分)	10時～14時 ※第2火曜 16時～20時	面接・要予約 (一時保育有)
女性のための法律相談	第1水曜日 (1回45分)	10時～13時	面接・要予約 (一時保育有)
女性のためのチャレンジ相談	第2木曜日 (1回50分)	10時～14時	面接・要予約 (一時保育有)
セクシュアルマイノリティ相談	金曜日	15時～18時	直通電話 072-767-1012 メール相談 右のQRコードを読み取り入力してください。 
男性のための悩み電話相談	第1土曜日	15時～18時	直通電話 072-781-5532
ハローワーク伊丹職員による女性と子育て両立のための就労支援相談	偶数月第4金曜日 奇数月第2水曜・第4金曜日 (1回50分)	9時～12時	面接・予約優先 (お子様同伴可)

3月7日(日)10:00～16:30
「ここいろミモザの日」



コロナ禍でオープンした「ここいろ」も、まもなく1年。初めての大きなイベントで、コロナ対策をしながら開催しました。当時は、乳幼児から大人まで、おひとりさま、親子、お孫さんと一緒に参加して頂き、たくさんの笑顔溢れる一日となりました。



似顔絵ワークショップ



人形劇・手作り楽器演奏



映画上映・監督トーク



減災ワークショップ



登録グループ展示



講座案内

「性別に関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会づくりの拠点」施設として、男女共同参画の学習を目的とする講座を実施しています。

「with コロナ時代」の働き方・生き方 再考

～男性のためのワーク・ライフ・バランス～

在宅勤務や時差出勤、リモートワークが広まり、横並び的な残業や長時間働く方が評価されやすかった慣習も変化しつつあります。ワーク・ライフ・バランスを考えた働き方・生き方、自分らしいライフデザインを探してみませんか。

5/15(土)

14:00～16:00

対象：テーマに関心のある男性20人程度

参加費：無料

一時保育：6人（1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約）

申込み：4/1（木）9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付（先着順）

講師 川中 大輔さん
(シチズンシップ共育企画 代表)

ここいろ ジェンダー講座

伊丹市は、性別に関わりなく自分らしく生きられる社会を、次世代に引き継ぐ豊かなまちをめざしています。昨年4月にオープンした「ここいろ」で、身近な疑問・関心事からジェンダーについて考えてみませんか。

5/13～5/27
(各木曜日)

10:00～12:00
[3回講座]

①	5/13 (木)	ジェンダーとは? ～コロナと ジェンダー格差～	田上 時子さん (NPO法人女性と子どもの エンパワメント関西理事長)
②	5/20 (木)	自分らしく生きることとは ～LGBTってなんだろう?～	藤原 直さん (LGBT活動家)
③	5/27 (木)	誰ひとり取り残さない スポーツであるために ～体育・スポーツに潜むジェンダー課題～	井谷 恵子さん (京都教育大学名誉教授)

対象：テーマに関心のある方20人程度

参加費：無料

一時保育：6人（1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約）

申込み：4/1（木）9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付（先着順）

ここいろ 市民企画講座

講座やイベント・企画作りについて学んでみませんか。
ジェンダーの視点、新しい知識をプラスして、「こんな企画をやってみたい!」という思いを形にしてみましょう。

6/16～6/30
(各水曜日)

10:00～12:00
[3回講座]

①	6/16 (水)	講座・企画作りI ジェンダーの視点を持つ 企画づくりとは	仁科 あゆ美さん (一般財団法人 大阪府男女共同参画 推進財団 理事・本部長)
②	6/23 (水)	講座・企画作りII 企画立案思いを形にしてみよう	
③	6/30 (水)	まとめ やってみよう 体験ミニワークショップ	田上 時子さん (NPO法人女性と子どもの エンパワメント関西理事長)

対象：テーマに関心のある方20人程度

参加費：無料

一時保育：6人（1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約）

申込み：5/6（木）9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付（先着順）

ここいろカフェ



お茶を飲みながら、一緒に語り合いませんか。テーマを設けて
ファシリテーターが進行します。(お子さん連れの参加も可)

参 加 費: 無 料

定 員: 各 10 人

申込み: 各月の1日 9:00~電話・窓口で受付(先着順)

5/22(土) 14:00 ~ 15:30

テーマ ○○家の墓 どうしようかな?

6/21(月) 10:00 ~ 11:30

テーマひとりっ子ってどうですか?

以降の予定については、随時センターHP等でお知らせします。

DV [ドメスティック・バイオレンス]とは? ~DVが子ども達に与える影響~

DVは、暴力で相手を思い通りに支配し従わせようとする人権侵害です。コロナ禍で、家庭で過ごす時間が増え、生活への不安、ストレスなどからの暴力の相談件数が増加しました。身体的・心理的な影響を及ぼすDVについて考えます。

対象: テーマに関心のある女性 20人程度

参 加 費: 無 料

一時保育: 6人(1歳~就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み: 5/6(木) 9:00~ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

6/20(日)

14:00 ~ 16:00

講師 高田 昌代さん

(神戸市看護大学教授)

ここいろ☆ぱぱサロン 子育てを語ってみよう

速さや効率が求められる仕事と違うのは、子育ての世界には「正解がない」こと。
今まで誰とも話したことのない「パパの子育て」について、思いを語ってみませんか。

対象: テーマに関心のある男性 15人程度

参 加 費: 無 料

一時保育: 6人(1歳~就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み: 6/1(木) 9:00~ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

7/10(土)

14:00 ~ 16:00

講師・進行役 福島 充人さん

濱田 智崇さん

新道 賢一さん

身体と心をととのえる 椅子ヨガ テーマ:「自分を受け入れる」

お仕事帰りや家事の合間に、気軽に「椅子ヨガ」でストレスケアをしませんか。日頃から身につけておきたい、心身のリラックス法もお伝えしていきます。

対象: テーマに関心のある方 15人

参 加 費: 無 料

申込み: 6/15(月) 9:00~ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

7/16(金)

18:30 ~ 20:00

講師 富田 あかりさん

(ヨガインストラクター)

はじめてのCAPワークショップ ~小学1・2年生対象~

CAP(キャップ)とは、子どもが暴力から自分を守るために人権教育プログラムです。
子どもを取り巻く暴力から自分の身を守るためにどう対応するか、「自分の大切さ」を
教え、一人ひとりが本来持つ力を引き出す(=エンパワメント)プログラムです。

対象: 子どもワークショップ 15人、大人ワークショップ 20人

参 加 費: 無 料

一時保育: 6人(1歳~就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み: 7/1(木) 9:00~ 電話・窓口で受付(先着順)

8/1(日)

14:00 ~ 15:30

ファシリテーター

NPO法人

女性と子どもの

エンパワメント関西スタッフ

ここいろ

愛称『ここいろ』は、
一人ひとり(ここ=個々)が
自分の色(いろ)を彩ることのできる
拠点施設であることを願って、
公募で名付けられました。

ここいろ 新型コロナウイルス予防対策中！



館内換気



館内消毒



お席の間隔

開館時間

月～土 午前9時～午後9時
日曜日 午前9時～午後5時30分
*日曜日は月2回のみ開館
第1・3日曜日(1・5・8月除く)

休館日

日曜日(第1・3日曜除く)、祝日
年末年始(12/29～1/3)

アクセス

阪急伊丹駅から徒歩約7分/JR伊丹駅から徒歩約8分
お車でお越しの際は、宮ノ前地区地下駐車場(有料)等をご利用ください。

ホームページ



facebook



LINE



伊丹市立男女共同参画センター ここいろ

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-2-2 伊丹商工プラザ5階

電話: 072-781-5516

FAX: 072-781-5530

<https://www.itami-kokoiro.jp/>